

会議名	令和元年度（2019年度） 第2回 産業活力創造会議		
日時	令和2年（2020年）2月4日（火） 午後6時～午後8時	場所	宝塚市役所3階 大会議室
出席者	委員	濱田恵三（会長）、神尾友治、矢野浩臣、湯浅忠 （以上敬称略）計4名	
	担当事務局	産業文化部長、産業振興室長、商工勤労課長、商工勤労課係長、商工勤労課係員 （株）地域計画建築研究所（2名）	
	関係課 関係機関	市長、副市長、市職員、宝塚商工会議所所長、宝塚市文化財団職員 計36名	
	講師	同志社大学経済学部特別客員教授 佐々木雅幸	
会議の公開・非公開	公開	傍聴者	なし
内 容（概要）			
<p>1 開会</p> <p>事務局： 産業活力創造会議の一環として、今回の勉強会を開催することになった。せっかくの機会であり、市職員の皆様にもご参加いただいた。</p> <p>産業活力創造会議の審議会では、本市の産業、観光、商工業、農業など全般に渡る基本的な考え方を示すため、産業振興ビジョンを策定しているところであり、議論していただいている。産業振興ビジョンでは、創造都市・宝塚の実現を大きな目標に掲げてやっていきたい。このため、第一人者の佐々木雅幸先生にお越しいただいた。本日は貴重なお話を聞かせていただけると思うため、勉強していただきたい。</p> <p>また本日は、中川市長にも聞いていただくことになっている。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）創造都市に関する勉強会</p> <p>講師：同志社大学経済学部特別客員教授 佐々木 雅幸様</p> <p>【講話内容は省略】</p> <p>【Q&A】</p> <p>Q1： ポローニヤの話は、私も20年前にしばらく滞在したことがあり懐かしかった。清荒神の参道には懐かしいお店も多数あるが、普通の住宅も建ち始めている。そこに、レストランから始まり、革職人や針金アーティスト、建築家、公務員などが集まり、お寺が持っていた広場で何かしようというプロジェクトができ、この日曜日にワークショップがあった。宝塚というまちには、そのような古い寺社仏閣や、だんじりのような古くからのコミュニティがある。一方で、近代的な再開発されたような都市構造など、多面的な要素があり、魅力にもなっている。ただ、まとまりがつかず打ち出しが弱い。歌劇ファン以外の年配男性などには、なかなかピンとこない。微妙なまちであるところから見て、どういう展開を考えたらいいか。</p> <p>また、セレンディピティという言葉を知らないので教えて欲しい。</p> <p>佐々木教授： セレンディピティは、ICT業界で普通に使われている言葉だが、分かりきった答えが集まって議論するだけではなく、全く当人たちが思いも寄らないアイデアが集まること</p>			

を、セレンディピティと呼んでいる。創造の場が大事だと言ったが、セレンディピティとはそういうきっかけが生まれるものということが、世界共通の認識となっている。

世界共通の創造都市の流れと、宝塚には宝塚の歴史文脈がある。文化には古い層から新しい層まで、様々なレイヤーがあり、バームクーヘンの年輪のようなものだ。私も今日、清荒神の六軒茶屋の前のギャラリーを訪れた。また中山寺も訪れ、400年ぶりに五重塔が再建された五重の塔を見た。中山寺は聖徳太子が創建しており、四天王寺と同じくらい古い。大阪の四天王寺と中山寺をつなぐラインの先に、斑鳩の里がある。渡来人はそれを分かって置いている。おそらく、中山寺のあるオリジナルな場所はパワースポットだ。清荒神も今より近かったのではないか。そのような歴史的な文脈を掘り起こすことは、文化政策でも大事だ。清荒神のくねくねとした道幅の狭い参道が良い。まだ空き家が多いが、地価が下がり、市もスタートアップ補助金を出している効果もあり、フリーランスの人が何か仕事をしたいと思い、アーティストの店が増えていくような、そんな雰囲気を感じた。これを行政がどうバックアップしていくのか、場合によってはつなげていけば良い。大劇場に来た人がこちらに来るような構想を描き、そこに磁石のようなもの、磁力が発生するものがあると良い。市役所の中にもつまらない。もっと面白いことを発見し、それを政策の中に活かしていけば、新しい文化と産業が融合した政策になるだろう。

Q 2 : このまちで創造産業にどう取り組めばいいかを考えているが、近代は郊外住宅地となり、消費者のまちのイメージが強い。住んでいる人も、ここでものをつくるのではなく、消費者が住んでいるまちと思っている。その中で創造的なものをどう織り込んでいけばいいのか、ヒントをいただければ嬉しい。

佐々木教授 : 古い工場は空洞化していく。古い業態のままの企業も業態転換を迫られる。それが創造都市が求められる社会的背景だ。市役所で安穩と考えてはいけけない。清荒神の清荒神市場は、一旦廃れてシャッターだらけになったが、また新しくなってきた。その界隈も同様だ。その兆しを皆さんがどう理解しているか。その変化を感じないと駄目だ。面白いと感じ、それを前にすすめる政策は何かを考える。政策は教科書があるわけではない。ただ、うまくいったところには共通点がある。ポーロニャではスーパーマーケットが潰れた。そこをどうしたか。若い音楽家に貸し与えたら、オーケストラを始めた。スーパーマーケットが仮設ホールとなり、若い演奏が集まりはじめ、海外からも呼ばれるようになった。起きてくる変化に、ポーロニャの文化政策が貢献しているが、文化産業、創造産業は、既存産業と違うところに目がある。環境は環境政策として考えず、環境産業とする。文化を文化産業とする。都市計画も同様だ。従来型の空間計画だけでなく、何にどういう機能を入れたらいいかを横断的に考える。これを市役所の中で考える。縦割りではなく、横断的に取り組むとどうなるか。そこに、従来にない新しい産業政策を融合した政策ができる。その目はすでにできている。これまでと異なるオープンな場所をつくる。これが大きな財産になる。

Q 3 : 先進的なモデルを多くいただいたが、今の宝塚の現状から、このまちを参考にしてはどうかというものがあれば教えて欲しい。

佐々木教授 : 2月19日に、私が同志社大学で開催する最後のシンポジウムがある。事例発表では、横浜市、京都市、高松市、鶴岡市が発表し、また全国の窓口担当者も参加する。その場でご自分で勉強して欲しい。

(2) 宝塚市産業振興ビジョンについて

(3) 宝塚市商工業振興計画について

会長 : 佐々木先生、ありがとうございました。宝塚市は創造都市の資格はあると思っていたが、それをさらに深めるような貴重なご意見をいただき、それを基に推し進めていき

い。

事務局： 資料1、2について説明。

委員： 誰が主体なのか。

事務局： 市が取り組む計画だ。

委員： 産業文化部が持って、活動の中心とするということか。

事務局： 資料2の本編は、資料1の概要に文章を肉付けしたようなものである。産業振興ビジョンの下にくる具体的な内容として、商工業振興計画案を説明する。

事務局： 資料3について説明。

事務局： 時間の関係で要点だけの説明になった。基本方向1～3について、その理由を4ページに記載しており、5ページには3つの基本方向に連なるそれぞれの施策、主な取組みを7ページ以降に列記している。ご一読いただき、次回の審議会で議論いただきたい。

会長： 今日は説明だけということだが、佐々木先生からぜひ一言いただきたい。

佐々木教授： 今日初めて拝見しており、宝塚市の固有の産業と文化を現代に継承し、発展していく、その発展軸を明確にして欲しい。

(4) その他

事務局： 第3回はすでに日程調整をさせていただいているが、次回は2月21日（金）14時から、今回説明させていただいた資料について、本格的にご議論いただきたい。

(5) 追加の意見交換

委員： 10年程度、いろんな方とお話をしているが、創造都市を行う上で、行政だけでも民間だけでもできないことであり、手に手を取り合って取り組む必要があるが、民間側から言うと、あまりやりたくないと思ってしまう。しかし、行政はこの部分を行うので民間はこの部分をやってほしいと言われると、話は進むと思う。そのような仕組みをつくっていききたい。先ほど、創造都市ネットワークに入ったらどうかというお話もあったが、確かに、民間が聞いても面白いと思うようなものを、行政がやってくれるとやり易いと感じた。

私は、宝塚というまちがどうすれば今後発展するかを考えた時に、女性のまち宝塚を掲げたいと言っている。理由は簡単で、歌劇があるからだ。日本全国で女性のまちを掲げられるのは宝塚だけだ。少し尖った施策だが、世の中の施策は2/3の合意があれば、取り組んでも良いのではないかと思っている。5～10%は必ず反対する人であり、行政はそこに目を向けがちだが、それでは発展するまちづくりは難しい。日本一、女性が住みやすいまちをつくる。女性係数ではないが、そういう発想をまちの発展につなげることを、どのように思われるか。

佐々木教授： 上手にキーワードを選びながら取り組むことが大切だ。女性だけでなく、女性ファーストでもなく、ジェンダーを超えたキーワードがあると良い。

委員： 女性の意見を聞くなら、まず宝塚に来て聞く。女性専用の店があるなら、宝塚に支店がないのはおかしいと思わせるような関係にしたい。

佐々木教授： 女性が暮らしやすい、起業しやすいまちというのはある。女性市長でもある。そのことが男性にとってどうなのかということは、理解は必要だ。

この会議に女性がいない。そこを変えていかないといけない。男性が女性のためと
言っても、女性が本気にはならない。女性委員が中心にならない。

閉会